



J R 連 合 NEWS

JRに集う
すべての仲間の
JR連合への
総結集を！！

2020 年度

No. 31

2020年10月15日

日本鉄道労働組合連合会

J R 連 合 自 動 車 連 絡 会 第 28 回 総 会

安全・安心なエッセンシャルサービスである JRバス産業の持続的な発展にむけて

10月12日、JR連合自動車連絡会は、名古屋市内において、第28回総会を開催した。新型コロナ対策として入口で手指消毒、検温等を行い、代議員・傍聴者総勢14人と例年より人数を制限しながら、全国よりJRバス産業で働く仲間が参集。JR連合からは荻山市朗会長、中村鉄平交通政策部長が出席した。



冒頭、JR連合自動車連絡会の西原一英代表幹事（JR西労組西バス地本委員長）が挨拶に立ち「初めての一時帰休を余儀なくされ、今も極めて厳しく、特に高速バスや貸切バスが深刻。まずは需要回復のためにバスの安全性を示すことが重要だ。また、高速バスは生活路線だと考えるが、明確な位置づけがない。公共交通ネットワークとしての視点を持ってバス産業のあり方を議論しなければならない」と現下の情勢に鑑みた対応の必要性と、今後の社会への適応について考えを述べた。また、荻山会長は「今まで人手不足にあえいでいたバス産業もコロナ禍で一変した。エッセンシャルサービスであることから、この難局を乗り切ることと魅力ある産業にむけて取り組むことを両立していかなければならない」と訴えた。

総会では、バス産業を取り巻く情勢を踏まえ、向こう1年間の運動の展開について協議した。総会後は、研修会として「バス産業のコロナ禍における国土交通省の対応と今後の展望」のテーマで国土交通省自動車局総務課企画室の星明彦室長から説明を受け、この間の各職場における現状について意見交換し課題認識の共有を図った。

翌日は、午前中にJR東海バス名古屋支店、午後には名鉄バスセンター・名鉄バス名古屋中央営業所の施設見学及び意見交換を実施。名鉄バスについては、私鉄総連加盟の名古屋鉄道労働組合および同自動車支部の全面的な協力によって、コロナ禍にも関わらず訪問することを実現でき、有意義な機会となった。

JR連合自動車連絡会はバス産業の危機的状況を乗り越え、魅力あるバス産業を構築すべく、JRバス労働者の総結集を果たし、一丸となって取り組んでいく。